

# 朝日山だより

1月 初もうでより



2月 料理教室より



社会福祉法人 あさひ会

生活介護事業所 朝日山学園・グループホームあさひ

ヒューマンサポートタッチ

佐賀県東部発達障がい者支援センター結

〒841-0073 佐賀県鳥栖市江島町字西谷3300-1

TEL (0942) 84-3266

(0942) 81-5409 (支援室)

FAX (0942) 84-3286

E-Mail: [asahiama@grace.ocn.ne.jp](mailto:asahiama@grace.ocn.ne.jp)

## 『福祉サービスは「愛」』

理事長 古澤 文雄

昭和26年3月（1951年3月）に施行された社会福祉事業法（社会福祉法に改称）第3条（福祉サービスの基本理念）には「福祉サービスは、個人の尊厳の保持を旨とし、その内容は、福祉サービスの利用者が心身ともに健やかに育成され、又はその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるように支援するものとして、良質かつ適切なものでなければならない」とあります。

私の福祉サービスの基本は「愛」と心に染み込ませています。法律の条文、役所の文章に愛情という言葉は馴染まないのでしょうか。障がい者、弱者に対しては人格の尊厳とか人権享有などの言葉より愛情をもって接し、支援や介護を求めることでいいではないか。愛とか愛情は法律や役所の文章にそぐわないのでしょうか。

あさひ会の理事長の役について2年足らずの間に、不幸にして当施設の利用者の保護者の死に遭遇しました。我が子に注いできた愛情が途切れることと、我が子の行く末にどんな思いを寄せられていたかを思うとき心が病むのです。「私たちがしっかり守っていきます。」と伝えなければならないと同時に、社会的に私たちが営むこのような施設が求められていることを痛感しました。

私たちは生活支援を通じ笑顔と愛を注ぐ活動であることを意識し保護者の「幸」のお手伝いをしていることも自覚しなければならぬと思います。そのためには活動に携わるスタッフの心身にわたる健康が必要なことはいうまでもありません。愛にあふれた施設運営を構築するための知恵を絞っているところです。



## 『新年度に向けて』

朝日山学園 管理者 高取 正憲

昨年11月、鹿児島県鹿屋市の住宅型有料老人ホーム「風の舞」で、入居者6人が相次いで死亡していたとのニュースがありました。8～9月に介護職員8人全員が退職され、夜間は施設長がほぼ1人で対応していたといえます。

鹿児島県としては施設の聞き取り調査、立ち入り検査をし、業務改善勧告などを検討するとしています。立ち入り検査の時点で介護職員は補充されていなかったと報道されていました。更に新聞の記事では「厚生労働省によると、住宅型有料老人ホームは介護職員の配置基準に法律上の定めがないが、指針では夜間の介護や緊急時の対応などで職員を配置するよう示しており、県も同様の指針を示している。」と書かれていました。私としては「県としてはしっかり指導している、事業所だけの問題だ」と言われているような気がしました。

入居者6名の方のご冥福をお祈りすると共に、このようなことが何処にでも起こり得ることなのではないかと危惧しております。

現在、この国では様々な業種で人材が不足しています。更に介護、障がいの分野においては今回のニュースのような深刻な状態に陥っている事業所も少なくないでしょう。その為、介護、障がいの分野にも外国人の方に働いていただいている事業所が徐々に増えてきています。外国の方に働いていただくことは、その方に合った仕事であれば問題ないでしょう。しかし、介護福祉士という資格を持って尚、介護の仕事についていない方々が多くおられる現状をどうにかしなければ今回のような悲劇を無くすことは出来ないのではないのでしょうか。志を持って資格を取った方が一生の仕事として介護、障がいの分





野で活躍できるような社会になることを願います。前号で「その人らしく生きてもらいたい」と書かせていただきました。それは私たち法人の理念「重い障害があっても、当たり前生き方が出来るように」「重い障害があっても、人として尊重されて生きていけるように」「重い障害があっても、自分で考え判断して生きていけるように」「地域の方々と関わりをもちながら、生きていけるように」によるものです。しかし、この理念を実践していくためには「人」がいなければ何もできません。今後、理事会、評議員会、保護者の理解を得ながら利用者、スタッフともども「その人らしい生き方」を考えていきたいと思えます。これからのあさひ会にご理解、ご協力を宜しくお願い致します。

## ～行事報告・クリスマス会（12月）～

### 『朝日山学園 クリスマス会』

支援主任 田中 大輔

平成30年12月21日、利用者、保護者、日頃からお世話になっている地域の皆様方を招待し、朝日山学園でクリスマス会を行いました。



今年のステージは「鳥栖にわか振興会」の方々に出演いただき、一口にわか、手品、にわか猿まわしを披露して下さいました。手品では、細長い風船を口の中に入れていくものがあり、「どうなるんだろう？」と、日頃あまり見られないよう驚きの表情を見せる利用者の姿がとても印象的でした。他にも一口にわか、にわか猿まわしと、会場全体が笑いに包まれ盛り上がりました。

ゲームは、各テーブル対抗で牛乳パック積みゲームをしました。各チー

ム崩れないよう慎重に積み上げていき、真剣勝負が繰り広げられ、皆さん笑顔で参加されました。

利用者の音楽発表では、4月から音楽活動の中で練習してきた「山の音楽家」「手をたたきましょう」の2曲を楽器演奏しました。ある保護者の方から「できている姿に驚きました」というお言葉を頂き、日頃の取り組みを見て頂ける貴重な機会となりました。利用者の方も日頃の成果を出し良い演奏ができていました。



今年も朝日山学園のクリスマス会を開催するにあたり、景品やお菓子などのご寄付いただきました皆様、ご多忙の中、参加していただいた来賓の皆様、本当にありがとうございました。日頃より学園の取り組みにご理解いただき、い

つも温かく見守って下さり感謝しております。今後もよろしく願いいたします。ありがとうございました。

## ～朝日山学園の取り組み紹介～

### 『ケース検討会 Hさんの外出支援について』

支援員 中島 智子

朝日山学園では、利用者の生活がより快適に、また、御本人の気持ちに添えるサービスが行えていけるように、定期的にケース検討会を開きスタッフ間で支援を共有できるように心がけています。

先日行ったケースをご紹介します（Hさんの外出支援について）。

Hさんは、スタッフと外出して、お店で買い物をしたり、食事をすることを楽しみにしています。Hさんの外出支援は、今までは限られたスタ

ップで対応していましたが、今後いろんなスタッフと外出する機会も作りながら、将来的に支援者の広がりにつなげられたらと考えました。Hさんの中で「外出=Aスタッフと行く」と固定観念があり、急に「今日の外出はBスタッフ」と支援者が変わることを受け入れてくれることも難しいだろうと考え、HさんがBスタッフと外出出来る為にどのような支援が必要か、ケース検討会で話し合いをしました。



今回のケース検討会は2つのグループに分かれて討議しました。話し合いの内容は下記の通りです。「突然違う支援者が迎えに来た場合どのようなことが想定され、Hさんに接する時にどのような配慮が必要か」また、「今現在、Hさんはどのようなことに興味を持っているか」「外出支援の内容をどうするか」そして何よりも、「Hさんとスタッフがともに楽しんでいくためにはどうすればよいか」グループ討議後、検討内容を各グループが発表し照らし合わせた結果、同じような意見が連なり、スタッフの思いと意識が同じ方向を向いている事を感じ嬉しく思いました。

外出に向けてHさんとBスタッフの関係づくりから支援を開始しました。まずはHさんにBスタッフに興味を持ってもらうために、Bスタッフの良い所・頼りになるところを、周囲のスタッフがさりげなくアピールしていく（Bスタッフ自身も、Hさんが興味のあることについて情報収集をしておく）。次に、Hさんの状態の良い時に、Bスタッフとの良い接点・会話を設けていく（Bスタッフ自身もHさんへ声かけの際は、ゆっくり話すように意識していく）。そして、徐々にBスタッフとの距離を近づけ、外出についてさりげなく触れていく。グループホームスタッフにも協力してもらい、学園同様Bスタッフをさりげなくアピールする、とい

うステップを踏みました。取り組みを始め、3日目に、Hさんが満面の笑みで「Bさんとラーメン食いに行こうかな」と発言もあり、そのタイミングでBスタッフに来てもらい、楽しく会話をしてもらいました。その後もHさんから外出の話



が出るたびに「Bさん」という言葉を添えていたところ、HさんからBスタッフを探し「Bさん、ラーメン食いに行こう」と声をかける様になりました。外出支援直前までずっと、Hさんと良い関係を保てるように、全スタッフで意識し取り組んだ結果、当日はHさん・Bスタッフともに、満足し充実した時を過ごせました。その後も「また行こうね」と何度も言われています。

今回のHさんのケースを踏まえ、「朝日山学園を利用されている利用者の皆さんがより暮らしやすくなるように」という共通の意識をもち、日々支援に取り組んでいきたいと思っています。

## ～グループホームあさひより～

### 『GHあさひでの生活支援を通して感じる事』

GHあさひ 支援主任 小野 洋子

GHあさひが開設され、はや2年が過ぎようとしています。初めて親元を離れ生活をする利用者の方はもちろん、GHで生活をされていた利用者の方も新しい生活に慣れるまで、不安や緊張の中で過ごされてきたと思います。

多くが未経験のスタッフでスタートし、沢山の方に協力を頂きながら、少しでもより良い支援を行えるように努めてきました。利用者の方も徐々にGHでの生活に慣れて来られ、GHあさひが自分達の生活の場所



なんだという思いを感じて頂けるよう、役割やお手伝いを通して賞賛する機会を設けたり、四季を通して楽しめる様にレクレーションに取り組んでいます。その中で沢山のこんな事が出来るんだという発見も、私達支援する者の「やりがい」として感じるところです。

時には、利用者の方同士がぶつかり合う事もあり、支援の難しさを痛感する事もありますが、食事が進まない利用者の方に声かけし、別の利用者の方が励ますと食事ができたり、他の方のカバンや上履きを代わりに持ってきてくれたり、咳をしている利用者の方の背中を擦って心配する姿など、利用者の方同士が助け合う姿を見ると喜びも感じます。

利用者の方や保護者の方には、「GH あさひで生活をする事ができて良かった」と、心から思ってもらえる事が私たちスタッフの今後の課題だと思います。その為には、利用者の方に寄り添い、また一人ひとりの個性を生かし、笑顔ある生活を送れるように、初心を忘れずにスタッフ一丸となり、より良い支援が出来るようにしていきたいと思います。

知識や技術を更に身に付け、利用者の方の気持ちや特性の理解を深め、利用者の方と共にチャレンジし成長していきたいと思っています。



## ◎寄付者ご芳名

平成30年8月～平成31年1月

天本 喜代子 様 ・ 内田 孝喜 様 ・ 大田 涼子 様  
 岡 翠 様 ・ 上尾 央子 様 ・ 権藤 ツヤ子 様  
 斉藤 房子 様 ・ 鈴木 洋二 様 ・ 角 勲 様  
 竹中 クニエ 様 ・ 田中 洋子 様 ・ 中原 千工子 様



原口 敏子 様 ・ 広重 幸子 様 ・ 吹原 泰基 様  
升田 俊子 様 ・ 松尾 初子 様 ・ 三木 洋子 様  
毛利 広美 様 ・ 山本 立夫 様 ・ 宿利 健夫 様  
上田歯科医院院長 上田 明彦 様 ・ 西清寺 様  
医療法人野田内科設置の募金箱に募金頂いた皆様  
上田歯科医院の募金箱に募金頂いた皆様

### クリスマス会

鵜川 高富 様 ・ 大竹 義治 様 ・ 岡村 國助 様  
上尾 央子 様 ・ 桑原 美智子 様 ・ 権藤 信弘 様  
眞田 武彦 様 ・ 末藤 久美子 様 ・ 鈴木 洋二 様  
豊増 スミ子 様 ・ 西久保 正子 様 ・ 原 藤江 様  
原口 敏子 様 ・ 廣重 新興 様 ・ 廣瀬 耕三郎 様  
福島 多恵子 様 ・ 光安 一磨 様

社会福祉法人佐賀県共同募金会 様（NHK歳末たすけあい募金）

医療法人野田内科理事長 野田 芳隆 様

株式会社福糧 様 ・ 株式会社トスプロ代表取締役 野田 哲郎 様

原武登記測量事務所 様

以上の皆様にご支援いただきました。ありがとうございます。

## ☆ボランティア募集しています

朝日山学園・GH あさひでは、利用者の皆さんと一緒に散歩や作業をして頂ける方、お話し相手になって頂ける方を募集しています。皆様よりのご連絡をお待ちしています。



(朝日山学園支援室 担当 橋口 TEL：0942-81-5409)

## ～新しい職員の紹介～

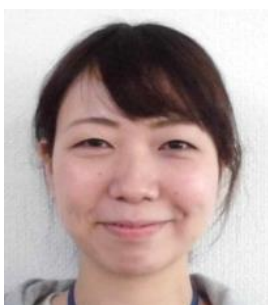
### ☆朝日山学園☆

廣田 寛子さん



平成30年11月より朝日山学園の生活支援員としてお世話になっております。利用者の皆様の安全と笑顔を第一に支援に努めたいと思っております。よろしくお願ひ致します。

藤本 舞優さん



平成31年2月より入職しました。一人ひとりの気持ちに寄り添った支援を心掛け、皆様に安心して日々を過ごして頂けるよう、精一杯努めていきます。よろしくお願ひします

#### ▣編集後記

早いもので新年を迎え、3カ月が過ぎようとしています。今年度も学園のサービス基盤である御本人の気持ちに添えるサービスを目指して、スタッフ間で話し合いを重ねてきました。その結果、支援に対する考え方もブレずにチームの結束力にも繋がったと感じます。

次年度も、利用者のより良い学園での生活につながっていけるように、スタッフ一丸となって取り組んでいきたいと思ひます。(江藤)